

現代日本語における外来語考

——英語を中心として——

池 田 久 一

はじめに

その地理的位置から外国文化の影響の下に発展して来た日本国民は大昔はさておき、仏教渡来と共に大陸の文物を競うて取り入れた当時外来語の流行したことは言うまでもない事実として残っている。明治開国以来すさまじい程の舶来主義が習い性となってしまった国民性の致し方ない傾向に迎合するかの如く、戦後もジャーナリズムやコマーシャルリズムが外来語の異質性から生まれる新鮮感に乗じて野放図に、無自覚な程に外来語の乱用流行を煽り立てている社会情勢を些かでも語学教育に関与する者としては無視するわけにはいかない。

例えば、この一週間のうちに新聞、テレビなどで、所謂「ナウ」(now)な用語を一寸気がついたものだけを拾ってみただけでも、アドバイス、アプローチ、アンバランス、イメージ・アップ、オープン、オーバーラン、オン・ザ・ライン、コーナー、コンセンサス、サスペンス、ショック、チェック・リスト、バス・センター、パターン、プロジェクト・チーム (task force?), メカニズム、モデル・チェンジ、マイ・ホーム・プラン、ムード、ヤング・パワー (youth power)、レパトリーなど全く数え切れない次第である。巷間に氾濫するこの外来語の乱舞はまさに狂乱インフレ以上のものがある。こうした現代の日本語の中に特に英語らしいものが余りにも乱雑に横行しているさまを見て、元名大英人教師 Prof. James Kirkup はこれを Janglish (or Japlish) と称して、折にふれては痛にさわる様なことを言っておられたが、今日の新聞雑誌を始め、街頭の宣伝

広告類など所謂マス・コミから是等の外来語を一切用いないとしたら我々の社会生活はどうなるであろうか？

言葉は社会習慣の産物なのだから、皆んなが誤用して、それが通用するならば、それは最早正用として認めなければならないと主張する説もある。(樫垣実編・外来語辞典)がやはり一応語学的見地から検討を試みる事が学問的良心なりと思考する立場から、本稿では我国の日常生活に最近(1月~8月)に現われた英語(又はそれらしいもの)の中で目立った若干のものについて観察した結果をまとめてみた。(9月8日稿了)

I 外来語という用語について

「漢字」で出来ている日本語の中には昔中国で出来たものを直輸入して通用したものよりは、日本の風土の中で造られたものが遙かに多くあるが如くに、現代日本語の中の外来語の中には英・仏・独・西・露その他の外国語を日本人が勝手に日本流に活用したり、でっち上げたりしているものが著しく増加しつつあるが、その中でも英語系が圧倒的に多いことは言うまでもない。これを一概に Japanese loan words of English origin (略して Japanese English) と呼んでいるけれども、その中には音韻上、意義上原語からずいぶん変化したものが流行しているので、日本製英語 (English made in Japan or Japan made English or English of Japanese make) と言った方がよい。Broken English in Japan とも言えるであろう。中には英語とも日本語とも識別し難い Japanized English となったものもある。

II 発音のズレ (discrepancy)

カレンダー (calendar) [kæɹlɪndə], ガソリン (gasoline) [gæɹsəlɪn] スタンプ (stamp) [stæmp] 等の [æ] の音は標準日本語にはないので「ア」で表現されるのは不正確だが致し方ない。

二重母音は長母音化される

boat [bout] → ボート, day [dei] → デー, game [geim] → ゲーム,

May Day [mei dei]→メーデー, tape [teip]→テープ, toast [toust]
→トースト

二重母音の短母音化

host [houst]→ホスト, hostess [houstes]→ホステス, post[poust]
→ポスト

短母音の長母音化

batter [baetə]→バッテリー, butter [batə]→バター, flower [flauə]
→フラワー, message [mesidʒ]→メッセージ, poster [poustə]→ポスター,
shower [ʃauə]→シャワー, wool [wul]→ウール

アクセント

日本語には、英語の所謂 Stress Accent (声音の強弱のアクセント) はなく、Pitch Accent (声音の高低のアクセント) をつけるのであるが、日本語の中で使われる英語の発音と原音との間には相当のズレがあることは注意を要する。

アイディア<idea [aidiə], エポック<epoch [épək], パターン<pattern [pætən]

子音の発音

[di] 日本語の中にはないので、似たような音をカナで表現する。
condition→コンディション, lady first→レデイ・ファースト, dilemma
→ジレンマ, building→ビルディング又はビルジング, pudding→プリン

[tju:] →チュー [tʃu:] stew→シチュー, tube→チューブ, tulip→
チューリップ

[θ] →ス [s] Marathon [mæərəθən] →マラソン, Thank you. →サンキュー,
three→スリー, thrill→スリル, youth hostel→ユース・ホステル

[ð] →ズ [z] leather→レザー, rhythm→リズム

[dʒe] は [ʒe] 又は [ze] 音で表現される。gesture→ジエスチュア

又はゼスチュア, gelatin→ジェラチン又はゼラチン, jelly→ジェリー又はゼリー

有声音の無声化 (Voiceless for Voiced)

cabbage [kæbidʒ] →キャベツ, dodge ball→ドッチ・ボール,
doubles [dʌblz] →ダブルス, singles [sɪŋglz] →シングルス, hose
 [houz] →ホース, news [nju:z] →ニュース, salesman [séilzmən] →
 セールスマン, smooth [smu:ð] →スムーズ

無声音の有声化 (Voiced for Voiceless)

close-up [klóusʌp] →クローズ・アップ, loose [lu:s] →ルーズ

綴字的発音

文字と共に輸入される場合, 正しい発音の知識がないと, 眼で見た文字を便りに発音する。

acaria [ækéiʃə] →アカシア, azalea [əzéiljə] →アザレア,
boy [bɔi] →ボーイ, dahlia [déiljə] →ダリア, glove [glʌv]
 グローブ, message [mésidʒ] →メッセージ, scoop [sku:p]→
 スコップ, ultra [ʌltrə] →ウルトラ, wool [wul] →ウール,
zero [zéro] →ゼロ

二重子音字は一つは無音であるにも拘らず両方共発音する

comma [kómə] →コンマ, common sense [kómənsens] →コンモン・センス, cunning [kʌniŋ] →カンニング, hammer [hæmə] →ハンマー, mammboth→マンモス, mannerism [mænerizm] →マンネリズム, runner [ránə] →ランナー, tunnl [tánəl] →トンネル
 特例 linnen [línən] →リンネル (flannel フラネルからの類推?)

日本語の音節 (五十音) ——Japanese Syllabary—— は元来開音節 (open syllable) であって, 母音で終るようにできているので, 子音が重ったり或は子音で終る場合の英語の発音は日本人には正確にはできない。従って, 日本語の中へ導入するには何等かの母音添加が生じてくるのであ

る。

(イ) 「ア」音添加

glass [glɔ:s] → ガラス, salad [sæləd] → サラダ

(ロ) 「イ」音添加

brake [breik] → ブレキ, brush [brʌʃ] → ブラシ,
cake [keik] → ケキ, check [tʃek] → チッキ, deck → デッキ,
extra [ékstrə] → エキストラ, text → テキスト, stew [stju:] → シ
チュー

(ハ) 促音添加

appeal [əpi:l] → アッピール, cushion [kúʃən] → クッション,
puff [pʌf] → パッフ, up and down → アップ・アンド・ダウン

同音異語

アナ < anarchist, announcer; ガード < girder (bridge), guard;
コート < coat, court; センチ < centimeter, sentimental; ダイア (ヤ)
< diagram, diamond; トラック < track, truck; フォーム < form,
platform; ホーム < home (base), platform; フライ < fly, fry;
プロ < production, professional, program, proletarian

Ⅲ 文法無視の傾向について

英語を研究又は学習する者でない限り、一般日本人は英語の品詞別などをはっきりと意識しながら言葉を用いることは殆どあるまい。だから、動詞から名詞へ、形容詞から名詞へ変化する際の接尾辞とか語尾の屈折などはお構いなしで用いられている。

(イ) 動詞形をそのまま名詞として

アナウンス (announce) → announcement, スケート (skate) →
skating, スキー (ski) → skiing

(ロ) 形容詞形をそのまま名詞として

カンニング (cunning=clever)(英語では cheating 又は cribbing);
ホームシック (homesick) → homesickness; ヤング (young) → the

young, the younger generation

(ハ) 単数・複数の観念に欠けている

オン・ザ・ロック (on the rock) → on the rocks, ゴルフ・リンク
(golf link) → golf links, ストッキング (stocking) → stockings
cf. ソックス (socks), スリー・ボール (three ball) → three balls,
ツー・ストライク (two strike) → two strikes

IV 省略・脱落

(イ) 前半

グラビア < photogravure, スピーカー < loudspeaker, ニス <
varnish, ニューム < aluminium, ネル < flannel, ボーイ (ホテル, ク
ラブ等の) < bellboy, ホーム < platform

(ロ) 中間

クラシズム < classicism, セコハン < secondhand, セーター <
sweater, ハンカチ < handkerchief, ロマンチスト < romanticist

(ハ) 後半

アパート < apartment (house), アンダー・スロー < underhand
throw, オーバー・スロー < overhand throw, エキストラ < extra-
player, エロ < erotic, グロ < grotesque, クロール < crawl-stroke,
スト < strike, スーパー < supermarket, センチ < centimetre or
sentimental, タイプ < typewriter, ダイヤ < diagram or diamond,
テックス < texture, デパート < department (store), デマ < dema-
gogue, デモ < demonstration, テレビ < television, テロ < terro-
rism, ドル < dollar, バック < background, プレハブ < prefabricated,
プロ < production or professional, ポジ < positive, ネガ < negative

(ニ) 語尾・接尾辞

アイス・コーヒー < iced coffee, インターカレッジ < intercollegi-
ate, ウーマン・リブ < women's lib, エンゲージ・リング < engage-
ment ring, オーライ < All right, カレー・ライス < curried rice,

クラシック(音楽) < classical, コーン・ビーフ < corned beef, コンクリ
 < concrete, コンパ < company, サイン・ブック < signature book,
 サラリーマン < salaried man, スキー < skiing, スパイク・シューズ
 < spiked shoes, ゼネスト < general strike, ハン・スト < hunger
strike, タン < tongue, ドン・マイ < Don't mind!, バーテン < bar
tender, ハッピー・エンド < happy ending, フライ・パン < frying
pan, ボディ・ビル < body building, ホームシック < homesickness,
 レジ < register

(ホ) 接続詞・中間語の省略

ゲーム・セット < Game and set., タイム・アップ < Time's up.
 (Time is up.), ライス・カレー < rice and curry cf. bread and
butter

(ヘ) 語尾変化の誤用

パラシューター (parachuter) → parachutist, フリー・ランサー
 (free lancer) → free lance cf. dancer

(ト) 前語省略

ウィンドー < show window, クラブ < night club, クリーム・ソー
 ダ < ice-cream soda, コンプレックス < inferority complex, シャ
 ープ・ペンシル < ever sharp pencil, ミシン < sewing machine

(チ) 後語省略

エバー・シャープ < eversharp pencil, スクウィーズ < squeeze
play, スナック < snack bar, センター (野球) < center field or
fielder, ハイヒール < high-heeled shoes, ピケ < picket line,
 ベンチ (野球) < bench coach, ホーム・ラン < home run hit

V 日本語に於ける Misused English or English of Japanese usage

グリーンベルト (greenbelt) 元来は都市周辺の緑地帯——都市計画に
 基いて自然を多く残した地域の意だが、日本では、道路の中央部の草木を

植えた分離帯として用いられている。英語では medium strip という。

シャツ (shirt) (イ)「下着」英語では undershirt ; underwear という。(ロ)「ワイシャツ」(white shirt) 耳から入った声音の聞き覚えで、当初普通の人には「白い」という意味の 'white' という言葉がそこにあるということには気付かずに、白くない、色の着いたものまでワイシャツで黒いワイシャツの如きは全く笑止な誤用である。

スカイライン (skyline) 元来「地平線」という意味だが、特に山岳地の観光用道路の愛称に用いられている。

トランプ (trump) ——クラブ, スペード, ダイヤ, ハート各組の切札のこと。「トランプをする」→to play cards

ベース (base) e. g. 閣僚ベースの会談の場合の英語は basis である。

フロント (front) ——ホテルの受付, 英語なら reception clerk (desk) というところ。

マニア (mania) ——英語では「状態」のこと, 「人間」は maniac という。

メーカー (maker) e. g. メーカー品 (大手・一流製造業者の物) → (英語) an article produced by a well-known manufacturer

ケーキ (cake) = 洋菓子, タオル (towel) = 洋風手拭, ブリッジ (bridge) = 陸橋, ライス (rice) = 洋食店で洋式皿に盛って出す飯, etc. この現象は主として洋風のものと同風のものとの区別する必要から生れたもので、同じ意味の語も英語で言えば洋風のことを指すことになり、日本語で言えば和風のことを表現することになる。正に現代日本語に於ける特性と言うべきか。

「デッドロックに乗り上げる」(行き詰る) という句によくお目にかかる。これは 'deadlock' の lock (錠前) を rock (暗礁) と発音上の聞き違い又は活字の見違いから早合点して混同した humorous mistake の標本であろう。因に、英語では、「計画・事業などが行き詰る」場合には 'come to a deadlock; be at a deadlock; be deadlocked' と言い、「船が暗礁に乗り上げる」なら文字通り 'strike a rock; be wrecked

on a rock' であり, 「人生航路が暗礁に乗り上げる」場合には 'make a shipwreck of life' となる。

VI 日本特製英語

本場の英語の collocation 又は compound word としては確立していないが, 日本語の中で熟したもの

アフター・サービス (after+service) ←after-sales service, イメージ・アップ (image+up), イメージ・チェンジ (image+change), エコノミック・アニマル (economic+animal), エック (日本国鉄の割引周遊券愛称) (economy+coupon), オールド・ミス (old+miss) → old maid, ガソリン・スタンド (gasoline+stand) →gas station; service station, カフス・ボタン (cuffs+button)→cuff-links, カニング・ペーパー (cunning+paper) →crib, キャンプ・イン (camp+in, コスト・ダウン (cost+down), ゴール・イン (goal+in) →breast the tape; reach the goal, ゴールデン・アワー (golden+hour) → peak viewing time (hours); prime time, ゴールデン・ウィーク (golden+week)→“Golden Week” holidays, シートピア (Seatopia) (海の Utopia ともじったものであるらう), スキー・マン (ski+man) → skier, スチューデント・パワー (student+power) (black power の mimicry), センター・オーバー (center+over) →over the center (前置詞が後置詞となっている), ダンプ・カー (dump+car) →dump cart; dump lorry (or truck), デコレーション・ケーキ (decoration+cake) →fancy cake, デスク・プラン (desk+plan) →paper plan, テーブル・スピーチ (table+speech) →an after-dinner speech; a speech [made] at a dinner (luncheon), テレビ・タレント (television+talent) →TV personality, ナイター (niter) →night game, バック・ネット (back+net) →backstop, バック・ミラー (back+mirror)→rearview mirror, バトン・ガール (baton+girl) →baton twirler, ビーチ・パラソル (beach+parasol) →beach umbrella, フ

リー・バッティング (free+batting) →toss batting, プレー・ガイド (play+guide)→ticket agency, ベース・アップ (base+up)→a raise of the basic wage rate, ベビー・ブーム (baby+boom) , ベッド・シーン (bed+scene) →love scene, ベッド・タウン (bed+town) → bedroom suburbs, ホワイト・リカー (white+liquor) (焼酎のイメージアップに用いる言葉), マイ・ホーム (my+home)→my own home, モーター・プール (motor+pool) →parking lot, ヤング・フィーリング (young+feeling) (the younger generation 特有の感覚), レジャー・ブーム (leisure+boom) , レジャー・ランド (leisure+land) , レベル・アップ (level+up)→raise the level, レベル・ダウン (level+down) →lower the level

Ⅶ 比喩的表現又は転義 (English figuratively used in Japanese)

「コンマ以下だ」のコンマは decimal point (小数点) の point (.) と comma (,) とが混同されて, 「水準以下」と意義転換が行なわれたものらしい。

「コンパスが長い」のコンパスは「両脚規」(compasses) から比喩的に「両脚の開き」即ち「歩幅」に転義

「メートルをあげる」のメートルは metre; meter で「計器」の意から「気焰をあげる」となった。cf. 英語では, get high[-spirited]over one's cups; make merry under the influence of liquor; talk big in one's cups と言う。

Ⅷ 直輸入と見られるもの

アクアノート (aquanaut) , インターチェンジ (interchange) , コーヒーハウス (coffee house) , コンセンサス (consensus) , シンク・タンク (think-tank) , ジョイント・ベンチャー (joint venture) (外資との合弁事業) , ドロップ・アウト (dropout) (落後者) , ニア・ミス

(near-miss) (航空機の異常接近) cf. near collision, ニュー・フェース (new face), ノー・コメント (no comment), バーゲン・セール (bargain sale), プライバシー (privacy), フロア・マネジャー (floormanager), フロア・ウォーカー (floor walker), マスター・プラン (master plan), モノレール (monorail), ライトバン (light van), ワン・マン (one man) (独裁者, 但しワン・マン・カーは英語では a one-man-operated bus or a conductorless bus と言う), ワン・マン・ショー (one-man show)

む す び

日本の国際化と共に, 外来語は益々激増するであろう。文化財としての日本語が豊富になることは或面では調法であろうが, 前後の見境もなく舶来主義に駆られて乱用するとなれば, 或る意味で日本語の品位の下落を黙許することになるかと思われる。Necessity is the mother of invention. で, 日本人は猿真似どころか, なかなか humorous & intelligent な造語にも長けている面もあるが, 乱雑極まる借用振りは, 袖手傍観することはできない。出来るだけ正しい, 精選された外来語を使って日本語を生鮮潑刺と表現するように, 一般の人達に呼びかけ助言することが, 語学教育に携わる者に課せられた義務の一つではなからうか。

参 考 資 料

朝日新聞 (1月→8月)

中日新聞 (1月→8月)

三省堂: コンサイス外来語辞典

東京堂: 増補外来語辞典 榎垣実編

朝日新聞社編: 現代用語事典 1974

研究社: 現代英和辞典

岩波書店: 新村出編 広辞苑